

# 大谷學報

第五十八卷 第四号

昭和五十四年二月二十日発行

---

純粹經驗の思想と宗教……………	坂本 弘 (1)
— W・ジェームズと西田幾多郎 —	
ダルマパーラバドラのチベット文法論	
三十頌註の和訳(下)……………	稻葉 正就 (13)
蔡元培の「美育」論……………	大竹 鑑 (32)
詩僧慧宣と法宣について……………	河内 昭円 (45)
獲信の開く世界……………	小野 蓮明 (58)
— 「如来と等し」の思想 —	
大谷学会研究発表会要旨……………	(74)
昭和五十三年度 寄贈交換誌目録……………	(84)
彙 報……………	(93)

---

大 谷 大 学  
大 谷 学 会

大谷学報 第五十八卷 第二号

明恵上人の積尊観……………坂東 性純

近代真宗教学の根本関心……………本多 弘之

『山家学生式』の周辺……………名畑 崇

キャサリン・マンズフィールドの

「家ちがい」について……………市橋 弘道  
—「編物」を中心に—

教育学における方法論的反省……………土戸 敏彦

—教育学がはらむ認識関心について—

昭和五十二年 度 特別研究員 特別研究生 研究発表要旨

大谷学報 第五十八卷 第三号

南方上座部仏教の弘通と戒律思想……………佐々木教悟

光教寺顕順（顕誓）後嗣考……………北西 弘

パシユラールに於ける

科学的精神と精神分析……………西井 元昭

ウォレス・ステイヴンズの詩……………酒井 信雄

バクテリオ・ファージT3の形態……………加藤 尚子

春季公開講演会要旨

本能社会と文化社会……………京都大学 名誉教授 宮地伝三郎

図書館学の

異端視された一学説……………大谷大学 教授 荷葉 堅正

博士学位論文審査要旨

# THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF  
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

## CONTENTS

### Articles :

Pure Experience in Connection with Religion.....*Hiroshi Sakamoto* ( 1 )  
—William James versus Nishida Kitaro—

A Japanese Translation of Dharmapālabhadra's  
Commentary on the Tibetan Grammar  
*Sum cu pa* (2) .....*Shōju Inaba* (13)

Tsái Yüan-pei's Aesthetic Education .....*Akira Otake* (32)

The Poet-priests Huei-hsüan (慧宣)  
and Fa-hsüen (法宣) .....*Shōen Kawachi* (45)

The World Opened up through the Acquisition  
of Faith .....*Rennyō Ono* (58)  
—the concept of "Being equal to Tathâgata"—

**Resumés** of the Papers presented at the  
Otani Society Annual Meeting ..... (74)

### Miscellaneous

---

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY  
OTANI UNIVERSITY  
KYOTO, JAPAN

# 大谷学会規程

会務を統理する。

四月一日から施行する。

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第七条 1、委員は十名とし、教授会において互選する。

2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・史学・文学並びにこれに関連する学術の研究と、その発表をおこなうことを目的とする。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

## 大谷学会役員

3、委員の任期は二年とする。但し再任をさまたげない。

委員 岩見 至 大屋 憲一

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

第八条 会員は本会の出版物にその研究を発表し、「大谷学報」並びに「大谷大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

一、季刊「大谷学報」の発行

柏原 祐泉 佐々木教悟

二、「大谷大学研究年報」の発行

長崎 法潤 名畑 崇

三、研究会及び公開講演会の開催

広瀬 英一 藤原 幸章

四、その他必要なる事業

箕浦 恵了 山本 唯一

第四条 1、本会は大谷大学大学院・文学部並びに短期大学のすべての教

第九条 会員の会費は年額金壹千五百円とする。

育職員及び学生をもって会員とする。

第一〇条 1、本会の経費は会費をもってこれに当てる。

2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員となることができる。

2、本会の必要経費については、助成金を受けることができる。

第五條 本会に左の役員を置く。

第一条 本会の事務は、教務課の所管とする。

一、会長

第二二条 この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

二、委員

附則 1、この規程は昭和四十八年

第六條 会長には大谷大学学長が当り、

この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

附則

1、この規程は昭和四十八年

昭和五十四年二月二十日発行

編集兼 大谷学会  
発行者 廣 瀬 泉  
印刷者 西村七兵衛

発行所 大谷学会

京都市北区小山上総町  
大谷大学内  
振替 京都 一八三九三番  
電話(〇七五) 四三二一三三二代  
郵便番号 六〇三

## 大谷大学研究年報 第三十集

戒学研究序説……………佐々木教悟

—十善業道を中心にして—

イエナ期の国家観と『精神現象学』……………訓覇曄雄

—政治とそれをこえること—

選択本願念仏の義意……………江上浄信

ゲーテ研究…イデーと象徴……………友田孝興

ストレス作用要因に対応する

防衛反応の研究……………瀬戸進

—単独寒冷刺激について—

## 大谷大学研究年報 第三十一集

浄土真宗の法印……………寺川俊昭

寺院縁起の研究……………堅田修

「報応論」と「神不滅論」……………古田和弘

—東晋仏教についての一考察—

唐代儒教の一考察……………若槻俊秀

—孔子の苗裔を通してみた—

宗教と村落構造……………志水宏行

—滋賀県安曇川町横江の場合—